

第1回（議事録）

2026（令和8）年6月30日（火）13：30～16：30 @長野県立歴史館第1研修室

発言者	発言内容
長野県県民文化部文化振興課・赤津	それではただいまから、令和8年度長野県立歴史館リニューアルあり方検討会を開催いたします。私、長野県県民文化部文化振興課の赤津と申します。よろしくお願いいたします。 このあり方検討会は、今後歴史館のリニューアルを考えるのに当たりまして、常設展示のリニューアル、それから考古資料の収蔵庫のあり方を中心に、専門家である皆様にご意見をお伺いするために開催することになりました。会議は本日を含めまして3回を予定しております。初めに、歴史館の現状やご意見を伺いたい論点などにつきまして、簡単にご説明申し上げます。 その後、館内をご案内いたしまして最後に終了予定時間まで、皆様からご意見をいただきたいと考えております。そして本日もご覧になっていただきました館内の状況を踏まえまして、2回目以降の会議においてさらにご意見をお伺いしたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。 なおこの会議につきましては公開となりますので、その点ご承知おきいただければと思います。 続きまして長野県県民文化部文化振興課長の秋山よりご挨拶申し上げます。
長野県県民文化部文化振興課長・秋山	皆様こんにちは。長野県の文化振興課の秋山でございます。先生方には大変お忙しいところ、今回、長野県立歴史館リニューアルのあり方検討ということでお願いを申し上げましたところ、ご快諾を賜りまして、改めて深く御礼を申し上げます。 今、赤津から申し上げましたように、今回の検討会は、令和8年度に、本日も含めまして3回、先生方にご足労を頂戴いたしまして、検討を重ねてまいりたいと思っております。

長野県県民文化部文化振興課長・秋山	まず、歴史館は、歴史の博物館ということでございますので、歴史学の専門の先生方からこれまでのご経験に基づきまして、ご意見をいただきまして、私どもの方でまとめさせていただきたいと思っております。そちらのまとめた結果については、さらに様々な地元の方々ですとか、例えば観光の分野ですとか、幅広い方々から来年度ご意見をいただくような場を設けまして、より広い視野で歴史館の今後について検討を深めてまいりたいというふうに考えております。大変お世話になりますけれども、本日忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
長野県県民文化部文化振興課・赤津	ここで委員の皆様から自己紹介をお願いできたら幸いでございます。 名簿順に久留島様からよろしくお願いいたします。
久留島氏	国立歴史民俗博物館に勤めておりました、久留島と申します。ここに書いてありますけれども、近世史が専門でございまして、主に幕府の直轄地（幕領）の研究をしていて、となりの山梨県には三つの代官所がありました。長野県でももちろん幕領があります。むしろ長野県の方が、私も研究している分野でいうと先進県で、鈴木寿先生が出されたお仕事や信濃史学会などの成果をそのまま引き継いでやっておりました。今では、さすがに山梨からも長野からも少し遠ざかって、広島県の幕領を調査していたりしております。 博物館に関して、長い間いた割には学芸員の資格を持っていないうえ、博物館についてもきちんと研究しておらず、いろいろ問題もありますが、リニューアルだけは３回、４回関わりましたので、そういう経験をお話できればと思っております。よろしくお願いいたします。
伊藤氏	筑波大学の伊藤でございます。長野県の南信高遠の出身で、信州近現代の地域史を研究しております。私自身、博物館運営に直接携わったことはございませんが、今年３月まで信濃教育会の教育博物館の所蔵史料の保存と活用に関して、３年間、アドバイザーとして参画していました。

伊藤氏	今年から、新しい長野県史、戦後史を中心とした県史編さん事業が始まるということで、まだ正式な立ち上げになっておりませんが、その準備段階から参画している関係で、今回の歴史館リニューアルのあり方検討会の委員になったと思っていますので、その観点からいろいろ思うところを述べさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
森原氏	山梨県から参りました、森原と申します。この3月まで山梨県庁で文化財専門職員として働いておりました。現在は所沢にございます、角川武蔵野ミュージアムで学芸員をさせていただいております。 専門は考古学ですが、博物館につきましては山梨県立博物館に学芸課長として10年ほど勤務した経験がございます。お隣の県ということで、ぜひ良いリニューアルができるように協力させていただきたいと思います。 どうぞよろしくお願いいたします。
古川氏	日本女子大学の古川と申します。ここには書いてありますとおり、私は神奈川県博に17年ほど勤めておまして、その前は実は久留島先生がいらっしゃる前の、国立の歴博でリサーチアシスタントをやらせていただいて、それから博物館に入って、今女子大の方では、半分史学のコマを持って半分学芸員養成のコマを持って、そのために結構授業等でいろいろ博物館のことを教えるという行為をしています。神奈川の県内ですと、大磯の郷土資料館の協議会や、あと県の文化財強化の役員もしておりますので、いろいろと情報としては、最新の事例含めて、一般の方よりは知っているようなところでございますので、またこのリニューアルにおいて、何か参考になる意見を述べることであれば幸いですと思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。
長野県県民文化部文化振興課・赤津	皆様、ご紹介ありがとうございました。事務局につきましては、お配りした名簿のとおりでございますので、ご覧いただければと思います。それではこれより会議に入らせていただきます。会議の進行につきましては笹本さんをお願いを申

長野県県民文化部文化振興課・赤津	上げます。最初にご挨拶をいただきまして、以後、会議の進行をよろしく願います。
長野県立歴史館参与・笹本	皆さんお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。 私にとっては尊敬する、それから仲間のような人たちばかり、遠慮なくご意見賜りたいと思っております。実は私、昨年までこの特別館長を 10 年間務めまして、来たときからリニューアルとずっと言い続けていたんですけれども、なかなか前に進まなくてこのような会議がやっと開かれた。ということは、逆に言うと、リニューアルがきちんとされるようにならざるを得ないだろうと思ってます。そのためには、先生方から最新のご意見と、それからどうなったら県民の皆さんにとって、役に立つ博物館になれるか、どうしたら博物館の成長を続けていくことができるか、そういったことについて教えていただければと思います。これから 3 回よろしく願います。 それでは、これから次第に沿って進めてまいりたいと思います。限られた時間の中で、有意義な会になりますよう、円滑な進行にご協力をお願いいたします。 それでは、初めに配付しました資料について事務局の方からご説明をお願いいたします。
長野県立歴史館長・矢澤	館長の矢澤でございます。先生方お忙しい中、当館のためにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。1 年 3 回、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 資料につきましては、事前にお送りをさせていただきましたが、本日は館内をご覧くださいますので、簡単に私からご説明をさせていただきたいと思います。着座にて失礼いたします。 お手元に 2 種類、資料を配らせていただいております。まず当館の概要につきましては、この資料 1 の令和 8 年度事業概要書、以下の資料になりますのでご覧くださいと思います。

長野県立歴史館長・矢
澤

まずお開きいただきまして、1 ページの 2 を御覧いただきたいと思います。館の運営方針、役割と機能というところがございます。当館、考古資料、それから文献資料を中心とした博物館となります。それから次のページ、2 ページの下の 5 の館利用者数の状況をご覧いただきたいと思います。右の一番下にございますが、平成 6 年度の開館以来、延べ 300 万人の方にご来館をいただいております。ちなみにですね、その右上に吹き出しのようにちょっと四角で囲ってあるところがございます。資料の右上に、主な取組の R7 実績と書いてございますが、当館、東信・北信を中心に、県内の小学校の半分の小学校の見学先としてご利用いただいている、こういう状況がございます。続きまして次のページ、3 ページでございますが、収蔵史資料数、それから文化財の指定状況はこうになっておりますのでご覧いただきたいと思います。それから 4 ページ以下、10 ページまでは、事業の実績や事業計画、企画展のテーマ等をお付けしておりますので、またご覧いただければと思います。飛びまして 11 ページをお願いいたします。円グラフが書いてある資料でございます。横の円グラフについてです。これは令和 4 年度から 7 年度、7 年度は 3 ヶ月程になりますけれども、常設展をご覧いただいた方からお聞きしたアンケートになります。常設展のどの展示が印象に残ったか、というふうにお聞きしましたところ、回答数が少ないので断定的なことは申し上げられないと思いますが、これを見ますと特に「環境復元展示が印象に残った」というふうな回答をいただいております。以上が事業の概要でございます。

続きまして、資料の 2、長野県立歴史館の課題と書かせていただいた、A4 の横の資料をご覧いただきたいと思います。リニューアルの方向性につきましては、昨年度の当館の歴史館協議会、これは博物館法に定める協議会でございます、久留島先生にも委員としてご参加をいただいておりますけれども、そこでもちょっとご意見をいただいております、そのときの資料が 4 ページになります。4 ページを御覧ください。長野県立歴史館のリニューアルについて、これは歴史館

長野県立歴史館長・矢
澤

協議会の昨年の資料でございますが、その上に網掛けの部分がございます。ここに記載してありますとおり、開館から 30 年以上が経過いたしまして、施設設備の老朽化、それに加えて、貴重な歴史資料の収蔵スペースの逼迫が顕著になっている、それから常設展示スペース、抜本的な展示物のリニューアルまで行われていない、そういった課題がございまして、将来に向けた歴史館のあり方について検討が必要であると考えまして、この検討会を立ち上げさせていただいた次第でございます。

ではちょっとお戻りいただきまして 2 ページをお願いします。そのとき協議会でいただいた意見の概要を載せてあります。2 ページでございますが、例えば常設展示の内容につきましては、いつ来ても新しい発見があるものにしよう。あるいは通史型の展示、テーマ型の展示というものを対比させまして、メリット、デメリットということでご意見をいただいています。

それから 3 ページになります。次のページです。環境復元展示につきましては、環境復元展示の功罪についてご意見をいただいております。それからその下にございます、多様な方々の入館者への対応ということのための基盤作りということで、こういった観点からご意見をいただいているところでございます。こういったご意見も踏まえまして、5 ページ以降に、常設展示のあり方について記載をさせていただいていますけれども、本検討会でご意見をいただきたい、見直しの方性の案、あるいはご意見を伺いたい点等を掲げてございますのでご覧いただければと思います。

まず 6 ページになります。展示内容ということでございますが、テーマの内容、それから時代ごとのスペースのバランスの見直し、あるいは地域との連携に基づく展示、あるいは戦後史現代史の展示スペースの拡充といった見直しを、こうしたらどうだという案を示させていただいております。

次に 7 ページ以降に、7 ページをお願いします。7 ページ以降、常設展示の展示

長野県立歴史館長・矢澤	構成がテーマになってますけれども、まず7ページに、固定的な通史型の展示等、可変的なテーマ展示のすみ分けの案がございます。通史型の展示に加えまして、本県の歴史の特色や通史展では十分に扱えない部分を、可変的なテーマで補う、こういう形を考えたらどうだというのはもう載せてございます。 それから、8ページでございます。その通史型の展示でございますが、通史は生活史、文化史、政治史といったそういった設定をしたいという案や、それから先ほどもちょっとお示ししましたけれども、本館の利用者の大きな部分を占めますが、子どもに配慮した内容としたいということを記載させていただいております。 続いて9ページでございます。テーマ型展示、あるいは可変的な展示の利用の仕方として、例えば収蔵資料の研究成果の柔軟な発信だとか、県史編さん体制につきましては、新たな県史編さんの研究結果を提示、展示するための可変的なスペースを確保したらどうか、というようなことを載せさせていただいております。 それから10ページ11ページでございます。10ページはですね、実物大環境復元展示が扱いのところで、先ほどのアンケートがございましたけども、インパクトはありますが、内容はどうしても固定化してしまうという環境復元展示。それから11ページにございますのは、館の外に、縄文古代中世の植物、あるいは県内各地の遺構を配置した屋外展示・歴史のこみちがございまして、これらをどういうふうにリニューアルを考えていただくといいかなという投げかけをさせていただいております。なお12ページ以降に、環境復元展示の写真、あるいは屋外展示・歴史のこみちの簡単な見取り図をおつけしてありますので、この後施設をご覧いただく際の参考にしていただければと、思っております。 続きまして16ページからでございます。16ページにつきまして、展示設備についてでございます。展示設備につきましても、開館以来、大きな更新などが行われていないということから、今後のあり方についてご意見を頂戴できればと考
--------------------	--

長野県立歴史館長・矢澤	えております。 17 ページにございますのは、マルチメディアあるいは映像機器について県外博物館の状況から、導入の意義や効果、更新するとすればどのような留意点が必要か等についてご教示いただきたい、このように考えております。 それから 18 ページでございます。空調設備や展示ケースの現況になります。こちらでも更新するとすればどのような留意点があるのかどうか、現況等を含めましてご教示願えればと思っております。 それから 19 ページ以降になります。こちらは観覧者の利用環境設備についてということで、20 ページをご覧いただきたいと思いますが、20 ページにございますように、例えば展示パネルの難易度であるとか、多様な観覧者を想定した展示、あるいはバリアフリーという観点からの課題や留意点などにつきまして、本日館でご覧いただいた上で、あるいは全国の状況等を踏まえてご意見を伺えればと思っております。 それから 22 ページ、23 ページでございます。こちらの収蔵庫のあり方というテーマをつけさせていただいていますが、今全国的に収蔵スペースの不足というのがクローズアップされてございます。当館においても非常に大きな課題だというふうに考えております。23 ページを御覧ください。後ほど現場をご覧いただきたいと思いますが、考古の収蔵庫も、ほぼ満杯という状況でございまして、なかなか新たな資料を受け入れるには工夫が必要になるということになっております。それから古文書の収蔵庫も、寄贈の受け入れが最近増えてまいりまして、あと数年でおそらくいっぱいになってしまうのではないかと考えております。それで、収蔵庫の収容量というのは当然物理的な限界があるということでございまして、今後のことを考えますと施設の外部に、新たな収蔵スペースを確保することなども検討せざるを得ないのかなと考えておりまして、そうしたときに、そもそも県立博物館としての機能を効果的に果たすためには、資料の収蔵庫のあり方
--------------------	--

長野県立歴史館長・矢澤	というのは一体どのようなものが望ましいのか、さらには仮に外部に収蔵スペースを確保した場合に、施設内収蔵庫と外部の収蔵庫の住み分けをどう考えていくといいのか、といった観点につきましてご意見を伺えたらと思っております。資料の説明については以上でございます。冒頭でご説明させていただきましたとおり、この後館内をご覧いただきまして、それを踏まえて、終了時刻予定時刻までご意見を伺う予定ですが、2回目以降の会につきましては、この資料2でお示した論点に本日いただくご意見を踏まえた上でさらにご意見を伺っていききたいと、そのように思っております。説明は以上です。よろしくお願いいたします。
長野県立歴史館参与・笹本	どうもありがとうございました。そういうことで、ここで一旦皆様に観覧施設を見ていただく、見ていただきながらも、いろいろその場でないご指摘いただけないこともあるかと思しますので、遠慮なくご意見いただいて、少しでも私達にとって良い博物館のリニューアルができますよう、御意見いただけたら幸いです。それでは現場にいきましょう。
常設展示室・収蔵庫関係の見学	
長野県立歴史館参与・笹本	「時間が限られてきましたので、先程まで皆様に見て頂いた感想を頂きながら、是非考えていきたいと思います。まずは、本来ならご質問等を受けた上でということにしたかったのですが、一回り皆様のご意見を伺ってそれからとしたいと思しますので大変申し訳ありませんけれども、委員同士順番に、久留島さんから今日見た感想、それから今後のそのリニューアルについてこれだけは注意した方がいいですよということを教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。
久留島氏	前にも見せていただいたので、3つか4つぐらい考えていることをお話しします。1つめはですね、今回のような詳しい解説を聞かないと展示の意図がよく分からないということです。そもそもパネルが読みにくいというのも大きな問題です。とにかく暗くてパネルが読めませんでした。今日の解説を聞いて初めてわか

久留島氏

ったのですが、5つの大きな展示構成というのが何を意味しているのか全然分かりませんでした。前に来た時も時間があつたので、それなりに自分で理解していたつもりだったのですが、今日の解説とくらべると、これでははじめて来た人にはほとんど分からないですね。だから、解説の仕方がまず問題です。それから第2に、今の大きな環境復元展示をどのように残すのかは、これは今後の問題ですけど、全部残すかどうかについてはちょっと問題があります。というのは、展示スペースが変わらないとすると、そこをある程度つぶさない限り新しい展示スペースもできないわけですね。非常に興味深い復元展示はあるのですが、例えば近世の農家はほとんど展示の体をなしていないように思いました。長野県の近世の特色がほとんどでてない。近代のところになって初めて近代のいくつかの県になりましたって書いてあるのだけれども、それ以前の近世の状態がわからないのも良くないし、やっぱり現在の長野県を考えるとときに重要なのは近世じゃないかと実は思っています。中馬の展示は充実していたし、近世の信濃の重要な特色の一つだとは思いますが、それ以外のところがちょっと弱いなという感じがします。勿論、政治とか支配関係の変遷とかというのが大事だと言うつもりはないのですが、それをきちんと示しておかないと全体としての信濃国の近世というのはわからないのではないかなというのが、近世史の立場から見た2つ目の問題です。それから3つ目は、先ほどもすこし述べましたが、大中小のコーナー（パネルも含めて）の関係がぱっと見ただけではわかりません。これは修正されるだろうと思いますけど、大コーナー、中コーナー、小コーナーの関係性が分かりにくい仕様になっています。最初の大コーナーでは、パネルそのものが暗くて読めないもので、この辺りはもちろん今度の改正のところでどうするかということだと思えますけど、やっぱり展示構成とパネル解説との関係には相当工夫をしないとイケないなと思いました。4つ目はもう、もちろんご存じだと思いますので、ことさらにここで言うことではないかもしれませんが、正直言って、マルチメディア

久留島氏

はもうほとんど死んでいますよね。したがって、マルチメディアをこれからどうするかというのは深刻に考えていかななくてはいけないのですが、マルチメディアの使い方もなかなか難しく、すごくお金がかかってしまいます。とくに、更新で。私たちも長年苦しんでいて、最近リニューアルオープンした近代展示のところでは、結局、予算の問題もあってタッチパネルが十分にできなくて、「めくり」にしました。そうしたら、意外とめくりの方が喜ばれたりしているところもあるんですね。自分のペースで見ることができるということかもしれません。タッチパネルは1人で見るにしても、コンテンツの作り方によってはそれに制約されていくので、時間の問題もあるし、それからたくさんは出せないし、そこでたくさん出してしまうと人の流れが止まってしまう。タッチパネルより手でめくった方が、何かしら自分の体を使って、むしろ良いなというのもあるのです。もっとも、タッチパネルなしでは来館者を引きつけないことも確かで、タッチパネルを使わないといけないことは間違いありません。しかし、タッチパネルをどう作るかというのは今後の重要な検討事項ですね。タッチパネルでなければダメなところは絶対出てくるはずですが、それを補うものが必要になります。自分の携帯を使ってWEB上で画像や解説を見ることができる仕組みです。これについては、今日ちょっと使ってみたら、解説はよくできているんだけど、音声がなければこれからは意味がないと思いました。せっかく展示場に行って展示資料とむきあっているのに、自分の手元で文字の解説を読むというのは無駄ですよ。やはり展示物や重要な解説パネルをみても、詳しい解説、必要な解説は耳で聞くというのが、これからの博物館の一番いいやり方で、こうすると、観客が獲得できる情報量が増えます。展示の意図やその内容がわかる。この辺りを工夫していただいたらいいなと思います。細かいところでは、例えば近代のところは、もうすでに指摘されていたのですが、やはり展示が薄いし、それから現代では、昭和の恐慌と満洲移民という長野県にとって一番重要なところ、とくに南信にとって一番重要なところ

久留島氏	ろが、あれだけだとせっかく資料も聞き取りの成果もたくさんあるのに、もったいないなと思いました。それから、私はなぜ「教育会」がないのかと思いました。長野は教育県で知られていて、史学史的にも教育史的にももうちょっと大事にしてもいいのかなと思いながら見ていました。時間的な問題もあるでしょうから、最初の素朴な感想で留めておきます。ただ、中身の問題と見せ方の問題という関連する二つの問題では、今後中身をどうするかについては館内の学芸員の方を中心に具体的に検討されていくのだと思いますが、見せ方の問題としては、音声で聞いて、物と対話する、そこから自分で問いを見つけて考えるというスタイルが重要だと思います。
長野県立歴史館参与・ 笹本	どうもありがとうございました。最初の部分ですけども、このところは私が聞いている感じだと、できるだけ学芸員の皆さんが説明するんだ。だからあんまり説明しないんだって話だったんですが、学芸員も忙しくて、到底説明ができない。中身の調整というのは、秋の夕暮れが二つもあって、暗いことに意味があるのだということになっているために、見えないところがある。そういった意味では、解説の仕方、それから展示内容をどうするのかということを大きな課題だということを書いていただきました。 同時に、スペースの問題も今のままで本当にいいのか、今のお話を伺っていくと、やっぱり大事な場所をきちんとメリハリをつけるなり、しないといけない。今の中の区分でそのままいく必要は僕はないだろうと思っていますけど、その意義も含めて展示スペースの問題と今後大きく考えていく必要があるということで大変な示唆をいただきました。伊藤先生お願いいたします。
伊藤氏	私も歴史館に何回も来ていますけれども、常設展示室を見学したのは 10 何年ぶりです。企画展があったとき、特に自分が企画に関係したときには、常設展示室にも足を運んだことはありますが、ずっと廻ったのは久しぶりでした。今日解説をうかがいながら、改めて丁寧に見学することの重要性を感じるとともに、そ

伊藤氏	の後書庫と収蔵庫における資料の所蔵や保管状況の説明を受けまして、博物館の裏側や実情を知った上で、リニューアルのあり方を考えないと大変だなと思った次第です。 感想として2つあります。1つは、展示に関して、誰に向けて何を伝えるかということ、もう少し焦点化した方がいいという気がしました。最後の小学校の展示のなかで黒板のところに、今日常設展示室を見学した団体の名前が、小学校三校と老人大学などシニア関係などの五つの団体名が書かれていましたが、見学者の年齢に関しては60近くの年齢差がある。そうしますと、誰に向かって、何を焦点的に伝えるか、展示にもう少しメリハリをつけてもいいのかなという気はしました。全ての県民に開かれた展示にするのか、本来ならばそうすべきですけども、それはなかなか難しいのではないかと。それと関連して展示スペースの問題で、全ての時代、日本史の教科書的な全ての時代、旧石器時代から近現代に至るまでずっと通史的に展示するのか、長野県の歴史の特色に特化して展示するのかということも、考えてもいいかなという気がしました。そういう点で言うと、私の専門は近現代史ですので、久留島先生は長野県は近世とおっしゃっていますが、近現代、特に現代ですね。昭和100年ですので、満蒙開拓や信濃教育会の信州教育なども、長野県の現代史の特徴的なものですから、そういったテーマ特化型も考えていいのではないかと。 2つ目はですね、歴史館に何回も来て常設展示室が久しぶりだということは、では何をしに歴史館に来ているのかというと、私は所蔵史料調査のために閲覧室に来ているわけです。県立歴史館は、文書館や公文書館と銘打っていませんが、アーキビストもいらして、文書館的なアーカイブの機能をもっています。今までもう10数回歴史館に来ていますが、そのうち6・7割は文書館として、行政資料などの公文書の調査で来館しています。博物館じゃなくて、文書館として来ているわけですし、これから新しい長野県史編さんのこともありますので、文書館機
-----	--

	能の強化、行政資料や公文書の所蔵・活用の問題も、博物館資料の展示をメインにしながらも並行して考えていく必要があるのではないかという気がしました。 それと関連すると、歴史資料や考古資料はあるけれども、民俗資料が少ないというか無い。江戸時代の農具とか、近現代の最後の高度成長期の生活文化はありますけれども、民俗資料や生活文化との兼ね合いをどうするかということも、考えてもいいのではないかと思います。以上です。
長野県立歴史館参与・ 笹本	ありがとうございました。誰に何を伝えるかというのは、本来博物館で一番重要な部分、それは実際問題としてはあまり何か明示されてなくて、誰もがいいよと言っているが誰もが悪くない状況が続いています。その点はしっかり今後考えていきたいと思っています。それから久留島先生と同じようにスペースの問題は、やはり重要さをどう考えるのか、みんなで私の個人的な意識だと作ったときの学芸員の力関係で幅広い、狭いとなっていて、そういうことではなくて歴史上の重要性をきちんと何を訴えていくか、それはそのまま、誰に何を伝えるかというときに長野県の良さを伝えるというのも一つあるだろうし、逆に長野県のマイナスの部分ということもあるだろうし。そういったことを少し考えていきたい。それから民俗資料の問題が出ましたけれども、ここは元々考古のセンターとして作られ、そこに歴史関係が中に入ったと。で、時既に遅しで、民俗関係は抜かれていると。ですから今のところ、考古と歴史なんですね。民俗博物館はどこか必要になるだろう。逆に言うと、もっと独自のものがなくなかなか触れないだろうと思っています。ですから逆に言いますと今の段階でもしここに民俗が入ったら、収蔵庫の部分に関しても無くて本当にてんやわんやになってしまうだろうという感じを受けます。ただ、いずれにしろ、私達博物館は一体誰のために何を展示したいのか、スペースの問題や展示の手法について非常に重要なことをご指摘いただきました。森原先生いかがでしょうか。
森原氏	全体的には展示のリニューアルという課題と、収蔵のリニューアルという2つ

森原氏

の現状課題にどう対応していくのかということの難しさですね。展示に関して言えば 32 年前、30 年前には最新の展示だったと思います。草戸千軒遺跡の復元をした広島のアアிட்ட所の影響で、実物の世界、実物大の世界に身を投じるという展示。でもこれはインパクトもあるし、うけると思うんですが、やはり弊害としては、暗くなっていて、資料が見えない、あるいは展示の解説が見えないという課題が明らかになっている。最近はまだ実物大というのは、映像なりで立体型の映像はもう非常に盛んになって、技術が進んでいるので、そのあたりはリニューアルについては映像等でカバーすることができるのではないのかと感じるころがあります。あとは、子どもたちが多く訪れる館の割にはハンズオンが少ない。それはやっぱり触れたりとか触ったり回したりということで記憶に留めるような仕掛けが少ないので、それはやはり誰のためという部分にも関わりますけども、子どもたちという視点をターゲットに置くのであれば抜本的な改革が必要だろうと感じます。もう 1 つ最後にまとめとしては、収蔵庫の管理。リニューアルしても展示にしてもそうなのですが、この今日、事前にいただいた資料を拝見いたしましても、博物館あるいは県の行政側からの目線で作っているんですね。今はそれでいいと思うのですが。実際これからやっていかなければいけないのは、県民の皆さん、あるいは市民の皆さんにご理解を得なきゃいけない。そういう点から考えると、歴史館のリニューアルを行うことが県民にどんなメリットがあるのかというのは、しきりに考えてアピールしていかなければいけないと思います。

昔、コンビニエンスストアの CM で「開いててよかったセブン-イレブン」というのがありました。これはすごく大事なことであって、「開けててよかった」じゃなくて、「開いててよかった」だから受けたんです。そういうことで考えると、「あってよかった長野県立歴史館」という点を大きく訴えていけるようなリニューアル策を模索しなければならないなと感じました。以上です。

長野県立歴史館参与・
笹本

どうもありがとうございました。大変重要な御指摘をいただきまして、最初に言われた通り、間違いなく 32 年前は最新だったけれど、あの当時の学問の結果がそのまま綺麗に出てている。逆にその当時の悪いところもいっぱい出てきてしまうところもある。それを一体どうするのかという問題が、先ほどのスペースの問題であったり展示の何を取るか。誰に訴えかけるのかということでもっとしっかり考えていかなければならない。それから実は私はずっと、もっと小さな子どもたちの時期から来て欲しい、小学生で来る前に一回来ておいて遊びに来ておいてもらって、循環をさせるようなことをさせたいということですから「こども館」を作るべきということ saying たんですが、結局それは前に行かなかったんですが。やっぱり全体として未来を作っていく子どもたちのために何ができるかもう 1 回きちんと考える必要があるように思いました。それから先ほどの件、実はバラバラじゃなくて、森原委員の言われたこと、収蔵庫の問題と展示の問題は当たり前のようにものすごく大きなリンクになっていまして。リニューアルするときに、私達は今の物をどこに動かすのかっていうことが大問題になっています。私、信州大学附属図書館を改築させたのですが、そのとき本は全て 1 回外に出しています。非常に大きなプレハブを作って、でもこの場合は無理なので、そうすると今日の状況でわかるように、満杯になっている収蔵庫をそういう機会にちゃんとしないと今後前に行けない、展示だけでスペースを作ればそれが展示ができるのではなくて、展示をするためには 1 回どこかで物を開けたりする必要がある、今後のことも考えていく必要がある。それからもう一つ大事だと思うのは、本当に必要なかどうかを県民に訴えているかということ、まだまだ私達弱いと思っています。ぜひ機会がありましたら、なぜ必要か、今日の委員の皆様にもご講演等をお願いして、開いててよかったって言ってもらえるためには何をしたらいいのかということを考えていけるようにしていきたいと思います。それでは古川先生お願いします。

古川氏

もう既に3人の先生方がだいたい言及されていますので、同じような感想を持ちましたが、私はやはりバランスが環境型の展示と、それから中展示っていうその個別の展示のバランスが少し悪いと。ただその環境型展示は、このアンケートだと50%以上の方が非常に印象に残ったと言っているの、それはやはり効果はあるのだと思うのですが、例えば私などは中世なので、今日、村石先生がおっしゃっていたように、諏訪とかですね、信州にとって、すごく重要な歴史がポコッと抜け落ちているというようなところがいくつも、諏訪だけじゃなくて、その後の中世史の研究の進展などを考えると、後から入れようと思っても入る場所がないので、少し抜けてしまっている。それを今後、もしリニューアルということだと、どうしていくのかということは、やはり考えないといけないかなと思います。それから、あと、今、収蔵庫の問題がありましたけど、私は古文書の方も文書の閲覧とかで結構大変だなと思っていましたけれども、考古は今まで拝見したことがなかったので、考古の収蔵庫を見ると、いやもっと大変だなと思ひまして、ただ逆に言うと、知っているところで言うと、神奈川とか鎌倉とかと比べると非常にいい環境で、そこから比べるとですね、いい環境で保管されていて、それはありがたいことだと思うのですが、やはり考古の収蔵庫とそれから、これからの古文書の収蔵庫は、拡張しないと多分無理だろうと思います。そのときにどう両立させるかということである、多分見せながら収蔵するというような、ある種、海外だと結構あると思いますが、ただセキュリティの問題があるので、何でもかんでもというわけにはいきませんが、収蔵している状態を見てもらいながらとか、あるいは収蔵庫の中に置いておくだけで展示になるようなものを通路のような感じで見せながらとか、そういったビジュアルラボのようなものですね、見える収蔵庫とかラボみたいなものをやはりつける、作るべきなんだろうと思います。最近だと、鎌倉市の、鎌倉市もかなり考古の方では、紆余曲折いろいろあったのですが、市の持っている鎌倉から出土したものを、厚木の倉庫に動かしました。そう

古川氏	すると、倉庫の借り上げ代だけで当初 4000、5000 万ぐらいかかりました。移動費も含めて、そしてそれが遠くにあるのでなかなか面倒くさいと言えば変ですけど、簡単には持ってこられないっていうことになる、結局死蔵になってしまいます。ということでいうと、やっぱりこの館のすぐ近い所になるべく窓もいらな い何もいないからとにかく空調がしっかり効くきちんとした収蔵庫で、あわよくばそれを中が見れるようなそういうような収蔵庫をおいおいあの計画に入れていく必要があるのではないかと思います。その上で展示については、私は実物主義だと思っているので、これはもちろんレプリカにはレプリカの良さがあるんですけども、レプリカの通史展示っていうのは、どのみち割と飽きられてしまう というのでしょうか、リピートになかなか繋がらないところがあって、私はリピートしてるのは特別展がいつも県博さんは面白いので、特別展見にきて、それでちょっと常設見て帰るっていう感じなんですけど。やっぱり実物の持つ力というのが、これからますます重要視されてくるのではないかと思いますので、つまり デジタルが発展すればするほど、人々は実物を見たいかなというようなことがあるのだと思うのです。その裏腹として。ですので、博物館は実物を見て、感動する施設だと思っていますので、なるべくそういう観点からこれだけいろんな収蔵 資料がバックにはおありなのでそれを何かうまい仕組みで展示に生かしていくというようなことも、もっと積極的にもっていったらいいのかなと僭越ながら少し 思いました。
長野県立歴史館参与・ 笹本	ありがとうございました。変な言い方をすると、悪くも言いたいというか、何を展示するのか、やはり僕はとても大事だと思っています。冗談のようですけど。ここ善光寺があります。善光寺の国宝に対応できるのは松本の松本城、もし善光寺が宗教でいくのであれば諏訪大社。これで三つになりますよね。それで今おそ らく長野県が一番推してるのは自然なので、ただ上高地みたいなものをどうするかということもあります。そうすると、おそらく長野県で一番県外から人気がある

長野県立歴史館参与・ 笹本	あるのは軽井沢ではないかと思うので、そういった視点をずっと変えながらいかないと、もう何を展示するのかをきちんと決めていかないと今までのような形で単純に並べたらいいという時代ではなくなっていると思うので、大変重要な指摘をいただいたように思います。それから展示の実物主義、実は私が来たときは、来たばかりの頃は収蔵庫の中で子どもたちに展示を見せていたんです。あそこで土器に触らせたり、「縄文と弥生はこんなに違うよね」ということでやっていたんですが、それから古文書の方も今よりも、もう少し上に入ったのですけれども、空調の問題と収蔵そのものに対して一体いいのかという問題が出てきて今はもうそのところをやらなくなった。ですから、もし収蔵展示をするなら収蔵展示ができるだけの用意をきちんとしておかないと、いけないということを改めて思いました。そういった意味では、収蔵庫はどこでもあればいいというものではない。これは私ども須坂収蔵庫という、長野のさらに向こうに学校の跡を使って収蔵庫を持っているのですが、実際問題として、ここからちょっと持ちに行くこともできないし、そこに置かれるものは使わないから置かれてしまうようなことになってくる。ですから、今後の話として先ほどから何度も皆さんからお話が出ている収蔵庫問題がなかったならば、実は収蔵庫のことをしっかり考えなかったらリニューアルできないので、それに際して私達は一体どういう動きをとればいいのかということは、今後大きな課題になってくるだろうと思います。これで、一通りご意見を伺ったのですけれども、事務局からできれば 45 分でやめて欲しいとのことですので、あと少しだけ時間がありますので、ご質問、ご意見ちょっと足りなかったという点をお願いします。
森原氏	今回はあまり議論にならなかったのですが、次回に向けてですけれども、常設展のリニューアルを考えていく上で、常設展の位置付けって非常に大事なのですが、どうしても弱点がある、そうするとそれを補完するのが企画展だと。もう一つの側面は、先程も先生からお話がありましたけれども、私もそうですけど

森原氏	も、その博物館を訪れる、何度も何度も訪れる理由は特別展なり企画展を見に来るからというところがあります。そういう点でいうと、大変失礼な言い方をしますが、長野県立歴史館の弱点は、企画展示室が狭い。このテーマならもっと出せるだろう、もっとやりたいだろうという悔しさが伝わります。だから、スペースの拡張というのはなかなか難しいと思いますが、企画展示のあり方も合わせて検討しなければ常設展の検討もできないと思っていますので、企画展示室を諦めるならしょうがないのですが、何か別の方法はないのかなということで、企画展示室のリニューアルもターゲットに入れるべきではないかと思いました。以上です。
長野県立歴史館参与・ 笹本 長野県立歴史館参与・ 笹本	ありがとうございます。実は私、来たばかりの頃は、今のようなことをやるためには子どもの展示室を外に作って、そこに今の図書室をもって行って、そうするとあちらの両側が空くので、今の図書室の部分まで展示室にできるのではないかと、ずっと言っていたのですが、いずれにしろ、今までのお話の通り、私もそうです、初めての所は常設展を見に行きますけれども、一般的には企画展を見に行った後にやってるかどうかでみんな見に行く。特に、環境復元型になると周りの所がついつい気にならなくなって、一回大きなタイプを入れればそれでいいとなってしまうので、企画展示室の問題、これもまたリニューアルの中でできるだけ考えていかなくてはいけない。そうなってくるとやっぱり全体の部屋の面積の問題も、先程も言ったようにこれも可能かどうかもちっとやってみないといけないのですが、今の建付けで中を動かせるかによっても違って来るのですが、そういったことも含めて大きな課題として。あと皆さんの方からお気づきの点がありましたらもう少し頂けないでしょうか。
古川氏	少しこれもまた、もっと外れてしまうかもしれませんが、今日事前にいただいたこれを読んでいて、おやと思ったのは、千曲市のその古墳の博物館の話は全く出ていなくて、外から来る人はこちらが県で向こうは千曲市だというのはあま

	り気にしないで一体のものとして考えると思うのです。恐らく文化施設として。 それからそこにお土産物屋さんのような色々なものがあって、そういう面的にも うちちょっとリニューアルをする時は、協力できるところは協力するとか、千曲市さんの施設とその収蔵庫とかにしても何かうまくジョイントしてやれば費用が割と抑えられつつ、ちゃんとした物ができるのではないかな。集客もそこそこ広報とか叶うことがあるのではないかと少し思っていて、もちろん検討は既にされているのだと思いますが、ちょっとこの資料の中に載って無かったものですから、ちょっと気になったので、今、発言しました。
長野県立歴史館参与・笹本	ありがとうございます。やっと共通券のようなものが作られ始めたくらいで、実際問題としては、ほとんど繋がりが無い。でも、日常的には両方の駐車場を使わないと出来ないなど 色々なお祭りごとに本館から行ったりしていますので、今言ったようなことをもう少し考えながらやっていく必要があるように思います。 本会の皆さん、今の内に言っておいた方がいいことがありましたら。伊藤さんいかがですか。
	最初に話しました誰に向けての展示かという点では、やはり対象は子どもたちだと思います。長野県の歴史を受け継ぐ主体という意味でも。子どもたちをターゲットにしたとき、体感型というか、ハンズオンのようなコーナーを、近世の展示で千両箱を実際持ってみようといったコーナーがありましたが、そのようなコーナーをもっと設けるべきかと。また、子どもの発達段階に応じて、小学生、中学生など優先順位をつけて、このコーナーは小学生向きに、このコーナーは中学生や高校生という展示のやり方も考えていけばと思います。 また、リニューアルをどのくらい本腰で考えるか。1・2年休館にして展示を全部取っ払って本格的にやるのか、とりあえず常設展示室や企画展示の所だけやるのか、それによっても方向性が変わってくると思います。リニューアルあり方検

伊藤氏	討会が提言した方向で考えていくのか。それとも、ある程度方向性が決まってい て、その中であり方検討会が最善な方法を考えていくのか。それによっても意見 の出し方が違ってくるのではないかという気がします。
長野県立歴史館参与・ 笹本	ありがとうございます。やはり、今のとても大事だと思います。ただ、僕、一 回目ですから、皆で夢を語らないでいて最初からやっても面白くないだろう。あ る程度夢を語った上で、やれることとやれないこと、つまり県の予算の問題だと か、人員配置の問題だとか例えばですけども、もしリニューアルするのであれ ば人がやはりいないと今の状況で絶対リニューアルできませんので、そういった ことを含めて、少しお考えいただくしかないということ。最後に久留島さんまと めて。
久留島氏	とてもまとめることはできませんが、誰のための展示か、見る人はどのような 人たちなのかという点だけはもっと明確にして載きたいと思いました。正直に言 ってロケーションは非常に悪いです。二度目来ると言われたらなかなか来ない のではないのでしょうか。それをどうするのかというのは、結構色々な観点から考 えられるのですが、うちもロケーションは同じなので全く同じように苦しんで来 ました。リニューアルをしたからといって、継続的に人が来るわけでは必ずしも ないのです。大体、リニューアルで人が来るとしても1年、2年、で減っていく。 そうするとやはり企画展示でやるしかないのです。だから企画展示をどうするか ということをさっきおっしゃっていたけど、展示テーマは勿論、展示面積や使い やすさも含めて検討する余地があると思います。そもそも展示スペースが狭すぎ ます。また、常設展示は可変的でなきゃいけないと思います。常に、なにか新し くして勝負するしかありません。常設展で何か新しいことを学んで帰ると、もう 一度来ようかと言うことになります。また、展示内容を解説も含めてわかりやす くすることは不可欠ですが、こども向けの展示をするなら、別のスペースでする べきだと思っています。むしろ、こども向けのパネルを大人向けパネルと併設し、

	それは質問形式の内容をいれることです。展示物を向き合えるような質問をすることで、自らも「問い」を見つけることができるようになるのではないかと考えているからです。「こども向け」パネルで質問に対して自分で見たり考えたりする経験を経て、みずからの「問い」をさがせるようになるのではないかと期待しています。それは、大人にとっても同様で、何か展示物と対話して自分なりの「問い」を見つけることができれば、博物館が好きになり、また行こうかということにならないでしょうか。
長野県立歴史館参与・ 笹本	ありがとうございます。今のはやはり大変大事です。私たちいったい何のために、何をきちんと目的にして、それから今話に出ましたように、ここ圧倒的に場所が悪い。ここで人を寄せようとするとは相当苦労しなければいけない。そのためには僕は地域連携しかないと思っている。千曲市さんとどうやって連携するかだけでも、今の所、千曲市さんの反応は無い、私たちのほうもまたそういった所があるので、その辺を含めてまずは今日、第1回で色んな課題がありますということをお先生方に見ていただきました。その上でこれからあと2回ありますので、その所で問題を深めていきたいと思っています。協議につきましてはこれで事務局へお返しいたします。
長野県県民文化部文化 振興課長・秋山	どうもありがとうございました。
長野県県民文化部文化 振興課・赤津	笹本先生におかれましては、円滑に議事のご進行をいただきましてありがとうございました。また委員の皆様におかれましても、多くの貴重なご意見を賜りました。感謝申し上げます。それでは次第のその他といたしまして、事務局から連絡をしたいと思っています。
長野県立歴史館副館 長・新津	10月に2回目を開催したいと思っておりますので、また、2ヶ月ぐらい前になったらご連絡差し上げて調整したいと思いますのでまたよろしくお願いします。 以上です。

長野県県民文化部文化 振興課長・秋山	最後にご挨拶を申し上げます。本日は先生方大変お忙しいところ、熱心なご議論をいただきありがとうございました。長野県の良さを生かすべきであるとか利用者の方の目線、特に子どもの目線というお言葉もいただいたところでございます。しっかりと整理をさせていただいて、第2回に臨まさせていただきたいと思いますので、またお時間を頂戴できればと思っております。本日は誠にありがとうございました。
長野県県民文化部文化 振興課・赤津	以上をもちまして、第1回長野県立歴史館リニューアルあり方検討会を終了いたします。ありがとうございました。